

インターバンクの声（2015年8月25日）

昨晚、欧米市場の株価の値下がりとドル円の急落には、オフィスに残っていた人も自宅に戻っていた人も、多少なりとも驚かされたはずですが。テレビ・スクリーンの字幕が「ドル円が一時116円台に急落」と映ったのを見て、最初は119円の間違いかと思ったが、直ぐ番組内で116円が正しいと解り、驚くよりもあっけにとられてしまいました。一日の値幅は東京市場の高値が122円04銭で、ニューヨークの安値が116円37銭ですから、実に5円67銭のドル下落・円上昇です。一日で5円以上動くことは、そういつも起こる訳ではないのですが、ドル円が最後に一日で5円以上動いたのが2010年5月6日。この日、ニューヨーク株式市場でダウ構成銘柄のP&G社の株価が暴落。米大手銀行による誤発注による出来事で、NYダウ平均が昨晚の1,089ドル下落に更新されるまでの史上最大の下げ幅998ドルを記録していました。円のキャリートレード解消が極端に進んだ影響でしたが、5円95銭動いています。そして、その前が2008年10月24日のリーマン破綻時でした。詳しい解説は無用だと思いますが、この時、NYダウ平均は先週後半から昨晚までの下落幅ほどの下落とはなっていません。ただ、恐怖指数が史上最高値の90近い数値を付けていました。最後に念のために付け加えておきますが、リーマン破綻時の10月にドル円相場は約13円ほどの値幅がありました。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。